

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	甲府ケアセンターそよ風		
所在地	山梨県甲府市富竹3丁目3-5		
自己評価作成日	令和 5年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5年 3月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人一人の思いを大切にしている。相手の気持ちに寄り添う対応を心掛け、受け取るようにしている。
形式に捉われることなく、それぞれの(個々の)ペースで自分らしい生活を送れるように支援している。
ご家族様が県外在住の方等が多いため、意向や介護負担を考え、必要な方には、内科・皮膚科・精神科等の病院受診に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月に1回の会議の中で、利用者一人ひとりについてケース会議を行い、課題等について個別的な関わり、相手の気持ちに寄り添うことを大切にケアの実践に努めています。食事の場面では、レトルト食品は使用せずに、食材の発注から納品された材料を、ホームの中で調理しています。また、対面キッチンの長所として、できあがり直ぐに提供できる、調理の音や匂い、彩りを感じ取ることができる環境にあります。2ユニットが事務所を挟んで設置されており、「ふじざくら」ユニット内での人間関係に馴染めない利用者が「なでしこ」に移動したことにより、課題が解消されたり、互いの活動に参加し合うことで気分転換になるなど、複数ユニットは安心な暮らしの提供に寄与しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実施している。	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実施している。	パンフレットには「その人らしく、なごやかな環境で、ゆったりと自由な時間を」の理念が掲げられており、月に1回のフロア会議の場で共有が図られています。入職された職員については、センター長による研修が行われています。理念は、フロア及び事務所に掲示され、日々確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	組長会議、河川清掃に参加している。事業所の行事の際には、地域より物品を借用し、ご近所の付き合いをしている。 近所を散歩しながら、地域住民の方に挨拶をするなどして交流に努めている。	組長会議、河川清掃に参加している。事業所の行事の際には、地域より物品を借用し、ご近所の付き合いをしている。 近所を散歩しながら、地域住民の方に挨拶をするなどして交流に努めている。	組長会議は月に1回開催され、管理者が参加しています。地域からは、GHとデイサービスが合同で行う納涼祭において使用する椅子やテーブルを借りています。自治会行事として、河川清掃の他に、近くの神社での夏祭りに参加していたが、コロナ禍により行われていないとのことです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施(現在はコロナ禍のため書面開催)をしている。 包括・地区民生委員・ご家族様に作成した書類を送付し、意見・要望をいただいている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施(現在はコロナ禍のため書面開催)をしている。 包括・地区民生委員・ご家族様に作成した書類を送付し、意見・要望をいただいている。	運営推進会議はコロナ禍により、書面開催で行っています。内容に対して、関係者から意見を伺うが、書面では意見交換が難しかったり、家族との交流がなされないことから、今年度は対面での開催を取り入れていきたいとの意向です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な問題や疑問が生じたときなど、地域包括センターや行政に相談し、解決するようにしている。	困難な問題や疑問が生じたときなど、地域包括センターや行政に相談し、解決するようにしている。	わからないことを聞いたり、事故報告等を直接届けに行くようにして、「GHそよ風」を知って頂くことに尽力されているとのことを伺いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 玄関の施錠は道路に面しているため完全確保の面から、やむを得ず行っている。 お客様の要望に応じて、職員が付き添いをし外出している。	身体拘束は行っていない。 玄関の施錠は道路に面しているため完全確保の面から、やむを得ず行っている。 お客様の要望に応じて、職員が付き添いをし外出している。	目に見える拘束の他、スピーチロック等、日常の中でみられる事例を委員会で検証し、良いところの継続に取り組んでいます。やむを得ないとする拘束についても、必ず代替えで対応しており、身体拘束は行われていないとの話を伺いました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋げられるように努めている。 センター内でも身体拘束についての研修を行い、研修報告書を記入してもらっている。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋げられるように努めている。 センター内でも身体拘束についての研修を行い、研修報告書を記入してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、より良い介護に繋げられるように努めている。	研修会に参加し、より良い介護に繋げられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、お客様・ご家族様に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。 入居後も、不明なことや不安なこと等あれば、その都度対応をするようにしている。	契約の際、お客様・ご家族様に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。 入居後も、不明なことや不安なこと等あれば、その都度対応をするようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見交換をしやすい雰囲気づくりを心掛けている。運営推進会議やその都度出た意見・苦情等は、職員全体で共有し、運営に反映している。	日頃から、意見交換をしやすい雰囲気づくりを心掛けている。運営推進会議やその都度出た意見・苦情等は、職員全体で共有し、運営に反映している。	家族からは推進会議を通して、また電話等で意見を頂けるよう、関係作りを大切にしています。利用者については、職員やケアマネによる日々のコミュニケーションの中から思いを汲み取るようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各フロアごとの会議を開催している。その場で意見交換の時間を作っている。	毎月1回各フロアごとの会議を開催している。その場で意見交換の時間を作っている。	月に1回のフロアの会議には、管理者とケアマネが出席して意見を聴く機会を設けています。また、職員個々の様子を判断して、管理者による個別の面談も行われています。入職したばかりの職員に対しては、特に様子の把握に心がけているとの話を伺いました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。また、状況に応じて必要であれば、面談を実施し改善できるところは改善に繋がるようにしている。	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。また、状況に応じて必要であれば、面談を実施し改善できるところは改善に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。	法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあり、なかなか同業者との交流が出来ていない状況。社内のGH会議(現在は底面ではなくZOOM会議)の中では、意見交換等行っている。	コロナ禍ということもあり、なかなか同業者との交流が出来ていない状況。社内のGH会議(現在は底面ではなくZOOM会議)の中では、意見交換等行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と信頼関係を築けるよう、相手の気持ちに寄り添い、耳を傾けるように努めている。	ご本人様と信頼関係を築けるよう、相手の気持ちに寄り添い、耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、ご家族と十分な話し合いを行い、不安や不明なことがないように努めている。ご意見や要望があった場合には、その都度対応するようにし、信頼関係を築けるようにしている。	サービスを導入する段階では、ご家族と十分な話し合いを行い、不安や不明なことがないように努めている。ご意見や要望があった場合には、その都度対応するようにし、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家庭的な雰囲気でももりのある関係づくりが出来よう、心掛けている。	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家庭的な雰囲気でももりのある関係づくりが出来よう、心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご家族様に、生活の様子・健康状態などをお便りで報告している。	月に一度ご家族様に、生活の様子・健康状態などをお便りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの友人やご近所の方々にも、気軽に来ただけのようにしている。面会はいつでも自由に来られるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。(コロナ感染対策のため、面会制限あり) 馴染みの場所への支援は、ご家族にも協力をいただいている。	これまでの友人やご近所の方々にも、気軽に来ただけのようにしている。面会はいつでも自由に来られるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。(コロナ感染対策のため、面会制限あり) 馴染みの場所への支援は、ご家族にも協力をいただいている。	利用者に対して、近所の友人から電話が来たり、訪問者があつたら玄関での面会が行われたりしているとのことです。また、家族による受診の際に、馴染みの公園へ行ったり、行きつけの美容院に連れて行ってもらう等、人や場所との関係の継続が図られています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が関わりを持てるよう、状況や必要に応じて職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している。	利用者が関わりを持てるよう、状況や必要に応じて職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(退去後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。	サービス終了後(退去後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、ご家族様から情報収集を行い、可能な限り希望に寄り添えるケアを心掛けている。	ご本人の希望を尊重し、ご家族様から情報収集を行い、可能な限り希望に寄り添えるケアを心掛けている。	毎月の会議において、利用者一人ひとりについてのケース検討を行い、利用者との会話の中身の情報を共有しています。また、朝の朝礼は2ユニット合同で行い、ユニット間による意見交換の場を設けています。意思表示の困難な利用者に対しては、家族から昔の生活状況を伺い、ケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり情報収集を行い、今までの生活環境や馴染みの物等の把握に努めている。 出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように努めている。	一人ひとり情報収集を行い、今までの生活環境や馴染みの物等の把握に努めている。 出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれがご自分のベースでのんびりと過ごしていただけるようにしている。	それぞれがご自分のベースでのんびりと過ごしていただけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロアごとの会議を実施。その中で担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	毎月各フロアごとの会議を実施。その中で担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	担当者会議(管理者・ケアマネ・居室担当職員等)にて利用者一人ひとりについてケース会議を行い、介護計画を作成しています。介護計画は、1か月間試行し、評価を行い、継続あるいは変更した内容を介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や各フロアごとの申し送りノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。	個人の記録や各フロアごとの申し送りノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な対応が出来るように努めている。	既存のサービスに捉われない、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ近隣のお店を利用し、馴染みの関係を築けるように努めている。	出来るだけ近隣のお店を利用し、馴染みの関係を築けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向を一番に努めている。 在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、ご家族対応が難しい方には施設での往診医にお願いをしている。救急時には施設職員が付き添って病院受診を行い、必要に応じて皮膚科受診も施設対応で行っている。	ご本人・ご家族の意向を一番に努めている。 在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、ご家族対応が難しい方には施設での往診医にお願いをしている。救急時には施設職員が付き添って病院受診を行い、必要に応じて皮膚科受診も施設対応で行っている。	入居の際にかかりつけ医の継続と、往診医の受診の話がされています。かかりつけ医の受診は、各フロアで数名が継続されており、他の方は、家族が県外に在住している方もいることから、往診医による受診になっています。家族によるかかりつけ医の受診は、利用者にとって家族に会える喜びと、リフレッシュになっているとの事です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、それぞれのフロアに看護師が勤務している。昨年より訪問看護の導入、週に1度訪問に来ていただいております。適切な処置を受けている。	医療連携加算を取っており、それぞれのフロアに看護師が勤務している。昨年より訪問看護の導入、週に1度訪問に来ていただいております。適切な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、必ずサマリーを用意している。より適切な医療を受けられるよう、病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。	入院の際には、必ずサマリーを用意している。より適切な医療を受けられるよう、病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方、方向性を随時話し合っている。 在宅医療の協力体制を整えるように努めている。	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方、方向性を随時話し合っている。 在宅医療の協力体制を整えるように努めている。	入居時に、重度化した場合の説明がされています。また、利用者の重度化の状態の変化に応じて、その都度希望を聞くようにしています。医療的なケアが必要でない利用者の看取りは行われてきましたが、昨年10月より、訪問介護が使えるようになり、常時医療的ケアの必要な利用者への看取りの体制ができてきたとの話を伺いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者が万が一の事故に備え、定期的に学習会を行っている。	ご利用者が万が一の事故に備え、定期的に学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを想定した訓練を1回ずつ行っている。	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを想定した訓練を1回ずつ行っている。	事業所の立地場所は洪水が予想される地域とのことです。年に2回、昼はデイサービスと合同で、夜間はGH単独で避難訓練を実施しています。火災や地震の際は近くの中学校が避難先になっていますが、屋外での避難を行っています。避難訓練の職員体制は、当日の職員を中心に行うが、連絡網により他の職員による応援体制を整えています。	実際に災害が起こり、2階の利用者を屋外に避難してもらうには、限られた職員体制では困難と言えます。地域の自治会に対して、災害時における応援を依頼しておくなど、事前の交渉等しておくこと安心かと思っておりますので、検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や、ベースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊重を傷つけないような声掛けや接し方、対応に努めている。	一人ひとりの人格や、ベースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊重を傷つけないような声掛けや接し方、対応に努めている。	居室は個室になっているので、共有スペースでの過ごしの中で困っている場面を見かけたら、その都度、個別に対応しているとのことです。日常の場面では、パートやオムツ交換を耳元で話したり、1対1の入浴が終わったら次の利用者を誘う等、配慮されています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聴きながら、可能な限り自己決定出来るように働きかけ、支援している。意思表示が困難な方には、キーパーソンに意思を伺う等して、希望に沿った自己決定が出来るよう働きかけている。	ご本人の思いを聴きながら、可能な限り自己決定出来るように働きかけ、支援している。意思表示が困難な方には、キーパーソンに意思を伺う等して、希望に沿った自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の時間のスケジュールにするのではなく、個人のペースに合わせた時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。	職員都合の時間のスケジュールにするのではなく、個人のペースに合わせた時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく、自由に、身だしなみやおしゃれが出来るよう、見守り・支援をしている。	その人らしく、自由に、身だしなみやおしゃれが出来るよう、見守り・支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けにするなどして、工夫している。また人気のある献立や、季節の物(旬の物)を取り入れたり、出前を頼んだりして食事を楽しんでもらえるように工夫している。	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けにするなどして、工夫している。また人気のある献立や、季節の物(旬の物)を取り入れたり、出前を頼んだりして食事を楽しんでもらえるように工夫している。	食材の発注をホームで行い、納品されてから調理が行われています。利用者は調理場に関わっていませんが、対面キッチンになっていることから、出来上がった食事を温かい状態で召し上がることができ、また、調理時の匂いや彩り、音を感じ取れる環境の中にいます。特別食の利用者に対しては、小皿に盛り分ける等、見映えに配慮がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。1日の食事・水分摂取量が分かるように記録を付けている。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。1日の食事・水分摂取量が分かるように記録を付けている。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態や状況に応じて、協力医である送迎付きの歯科に相談し、受診している。	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。状態や状況に応じて、協力医である送迎付きの歯科に相談し、受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムを掴むようにしている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように、支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムを掴むようにしている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように、支援を行っている。	入院から戻ってくると、パンツがオムツになっていることが多いとのこと。職員2名によるトイレ介助を行うことで、トイレでの排泄、パンツの使用を目標としたケアが行われています。尿意のある利用者に対しては、トイレでの排泄の場面に拘ったケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や整腸剤等の薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするように心掛けている。	下剤や整腸剤等の薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	フロアー内事故防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	フロアー内事故防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	入浴は9名の利用者に対して、一日3名、3日に1回のペースで行われています。しかし、その日の体調や気分により変更したり、便失禁のあった方についてはその都度入浴されています。体の機能面で湯船に入れない利用者には、シャワー浴や足浴が行われています。利用者の好みの温度に配慮されたり、バスクリンを使い匂いや色を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量をできるだけ増やすようにしている。	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量をできるだけ増やすようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、職員全体が薬の内容を理解するようにしている。必要時、医師に情報提供をしている。	看護師が中心となり、職員全体が薬の内容を理解するようにしている。必要時、医師に情報提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことは積極的に行っていただくよう支援している。その方の出来ることがある限りは、思いに寄り添いながら支援するようにしている。	ご本人の得意なことは積極的に行っていただくよう支援している。その方の出来ることがある限りは、思いに寄り添いながら支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気・気候を見ながら近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作っている。(現在はコロナ禍のため、外出レク等出来ていない)	天気・気候を見ながら近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作っている。(現在はコロナ禍のため、外出レク等出来ていない)	事業所から歩いて10分程の場所に神社があり、日々の散歩が行われています。神社までの道中には、季節の色々な花が咲いており、利用者は四季を感じているとことです。コロナ感染が落ち着いた際は、みんなで、春は桜、夏はひまわり、秋は紅葉見学、冬は初詣に出かける企画が用意されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に事務所の金庫で一括管理している。	金銭管理は基本的に事務所の金庫で一括管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、希望があればいつでもやり取りが出来るように支援している。	電話や手紙など、希望があればいつでもやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感が出るような装飾をしている。部屋の室温・湿度には十分に気を付け、心地良く過ごせるよう配慮している。通路は広々とした雰囲気になるようにしている。	共有スペースには、季節感が出るような装飾をしている。部屋の室温・湿度には十分に気を付け、心地良く過ごせるよう配慮している。通路は広々とした雰囲気になるようにしている。	共有空間は、車椅子の方が安心して自走できるような導線が確保されています。また、テレビの位置もみんなが視聴できるよう配慮されています。リビングには季節感が感じられる物を皆で創作し、飾るようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは独りにはなれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	共有スペースでは独りにはなれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。ご家族とも相談しながら、自宅にいたときと同じようにリラックス出来たり、心地良く過ごせるように支援している。	居室には使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。ご家族とも相談しながら、自宅にいたときと同じようにリラックス出来たり、心地良く過ごせるように支援している。	居室にはクローゼットが備え付けられており、利用者は使い慣れたテレビやタンス、椅子を持ち込んでいます。また、位牌や仏壇、三面鏡を持ち込み、入居前の生活に近い環境の中で生活されています。物が多すぎて動きがとれない利用者には、心地よく過ごせるよう職員によるアドバイスのなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GHの玄関は安全を考慮して施設されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全かつ自由に行き来出来、それぞれが思い思いに過ごしている。	GHの玄関は安全を考慮して施設されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全かつ自由に行き来出来、それぞれが思い思いに過ごしている。		